

富士山の女神

浅間神の謎

ここで展示されている複製の原物であるは、知られている限りでは山梨県に現存する最古の作例です。しかし、富士山の南側に位置する静岡県では、さらに古い作例が確認されています。裾野市茶畑にある浅間神社には浅間神の彫像二体が祀られています。一体には四面、もう一体には三面の顔があります。さらに、これらの顔は全て女性です。

複数の顔を持つ神として表現されている江原浅間神社の浅間神が特異的でないことは明白です。複数の顔を持つ像は仏教彫刻ではよく見られますが、神道の神々の描写ではほぼ見られることはありません。研究者たちは、これらの像は全て 10 世紀か 11 世紀の作と判断しています。

忍野八海にほど近い忍草浅間神社には、一体の巨大な女神像が祀られています。この像は 1315 年に彫られました。前の時代に彫られたより小さな浅間神像とは異なり、二体の男神を伴っており、顔は一面のみです。このような二通りの描写を隔てた 300 年の間に、富士山の神の像は他にも彫られたのでしょうか。これは、今でも研究者たちが取り組んでいる疑問です。